

平成二十八年「花のまわりみち」

川柳入選句

小島 蘭幸 選

天地人・秀逸

「天位」

紅普賢象形状記憶する瞳

飛田 陽子

(評) 今年の花「紅普賢象」を、しっかりと瞳に心に焼きつけておこうという気持ちが嬉しいですね。この句は、形状記憶という措辞が光ります。

「地位」

糸括造幣局のチアガール

岩本 佳乃

(評) 糸括の淡紅色の花弁を、チアガールと詠んだ作者の感性が素晴らしいです。咲いている場所まで、しっかりと把握されています。

「人位」

何もかも忘れた母と花巡る

正山 史明

(評) 哀しい現実を、優しく明るく詠んでおられます。美しい花巡りです。

「秀逸」 (五句)

まわりみち桜を覗き合うカメラ

吉川 美佐子

(評) お気に入りの桜を一番良い位置で、カメラのシャッター音が響きます。

ゆつくりと花と人生まわりみち

土屋 龍三

(評) 美しい桜を愛でながら、ゆつくり歩いていると、ふっと心も平らになるのです。

弟と桜の前でツーショット

高山 咲希

(評) 弟さんを優しく見守っているのですね。この句、ツーショットがいいです。

園児等が手を振っている花吹雪

若山 宗彦

(評) 花吹雪と可愛い園児の笑顔、美しい情景です。

再会のときを桜が呼びよせる

藤本明佳音(あかね)

(評) 「桜が咲きました。会いたいですね」美しい桜です。

佳作

(十八句)

熊本に届けたいこの八重桜

岡村孝子

月桜ほのかな色に亡母ははの笑み

大田 さより

広島のさくらがさいて君に会え

羅書 坤(ラシヨクン)

楊貴妃の前でしばらく動けない

村田 たけ子

金婚を笑って祝う八重桜

池田博祐(苔石)

琴の音とそよぐ桜に時忘れ

西島 由美

見納めの桜と笑顔写し置く

豊田 芳香

最終日律義な桜咲き続け

山下 天平

関山のお菓子をひとつ食したし

小村 恵子

病み明けに友の優しさ桜みち

柳瀬 ヒサ子

一年のスタートにさくさくらだよ

すず木 はる

桜背に記念の自撮りまわり道

塩谷 邦子

花々の違い楽しむ子と歩く

伊達 智美

友達とみごとな桜の通り道

友重 眞子

日本一桜青空みな笑顔

斉藤 千恵美

26回欠かさず花のまわりみち

中植 紀子

澄み渡る造幣局の八重桜

村島 美知子

桜道新生活への第一歩

兒玉 えりか

選者吟

一本の桜と僕と幻と

小島 蘭 幸